

学校施設建替え計画(案)の 検討状況について

荒川区教育委員会

目次

- 1 本説明会の目的
- 2 学校施設の計画的な建替えの必要性
- 3 現在の検討状況
- 4 学校選択制度の取扱い
- 5 今後の予定

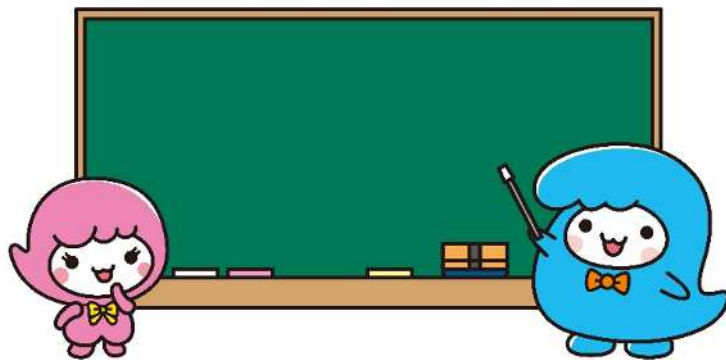
1 本説明会の目的

- 本日の説明会は、これまで区が検討してきた本計画の概要を、後ほどお示しする第一期計画で影響する小学校に通う児童の保護者の皆様にご説明し、ご意見・ご質問等をお伺いする場として行うものです。
- 現在の検討案においては、代替校舎への通学や統合等が想定されていますが、令和37年度までに築80年を経過する25施設を建替え、子ども達や地域の方が今以上に安全に利用できる学校施設にしていく必要がございます。

2 学校施設の計画的な建替えの必要性

背景

- 区内の学校は、半数以上が築50年以上経過し老朽化
- 教室不足への対応や学校規模の適正化
- バリアフリー化や避難所機能の強化、ICT化にも対応した学習・執務空間の整備が必要

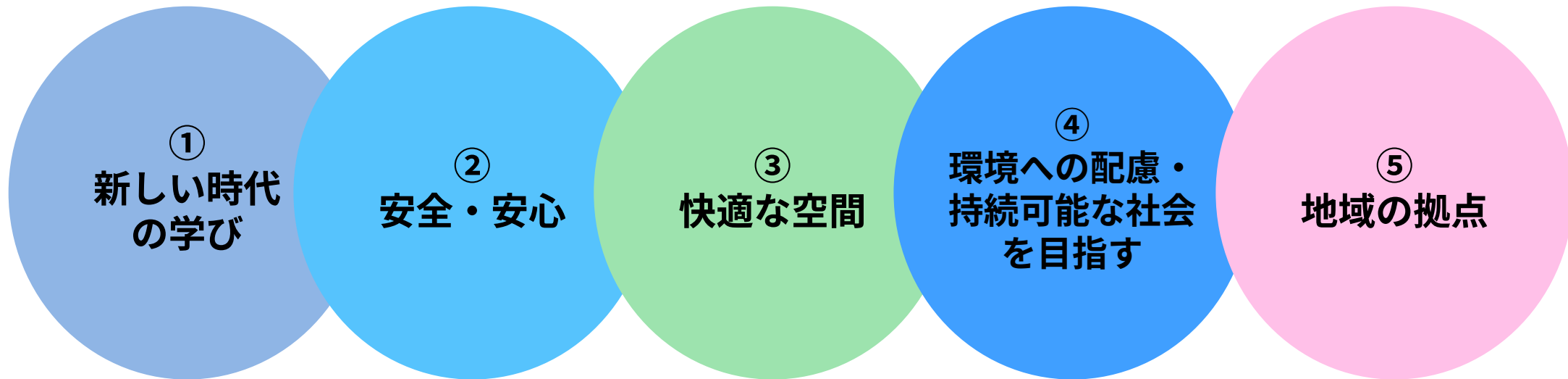


※荒川区教育施設長寿命化計画

- ・ 令和2年7月策定
- ・ 学校の耐用年数は、適切な維持管理をしながら80年としています

参考：新しい学校のイメージ

新しい学校は、次の5つのことを基本に、学校の伝統や個性、地域性等を考えて、学校ごとに特色ある活動や多様な教育活動を推進する



参考：新しい学校のイメージ



イラスト：文部科学省「新しい時代の学びを実現する学校施設の在り方について（最終報告書）」より



写真：尾久八幡中（学校図書館及び廊下）

3 現在の検討状況

(1) ロードマップ作成の考え方

- ア) 建替え順序
- イ) 適正配置
- ウ) 小中一貫教育
- エ) 特別支援教育
- オ) 複合化

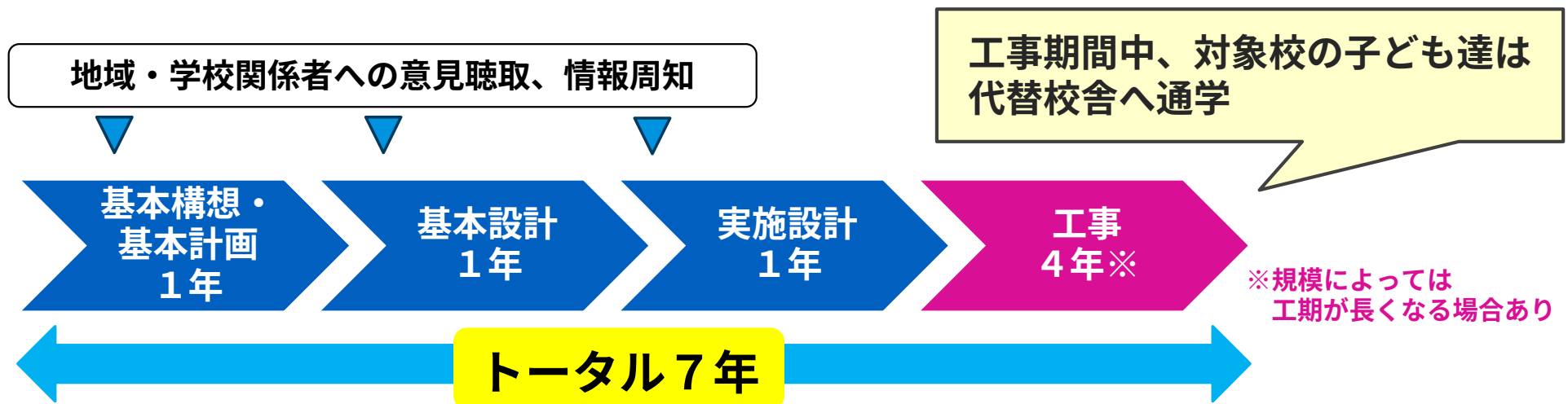
(2) 代替校舎候補

(3) 第一期におけるロードマップ案

3-(1) ロードマップ作成の考え方

ア) 建替え順序 ー考え方ー

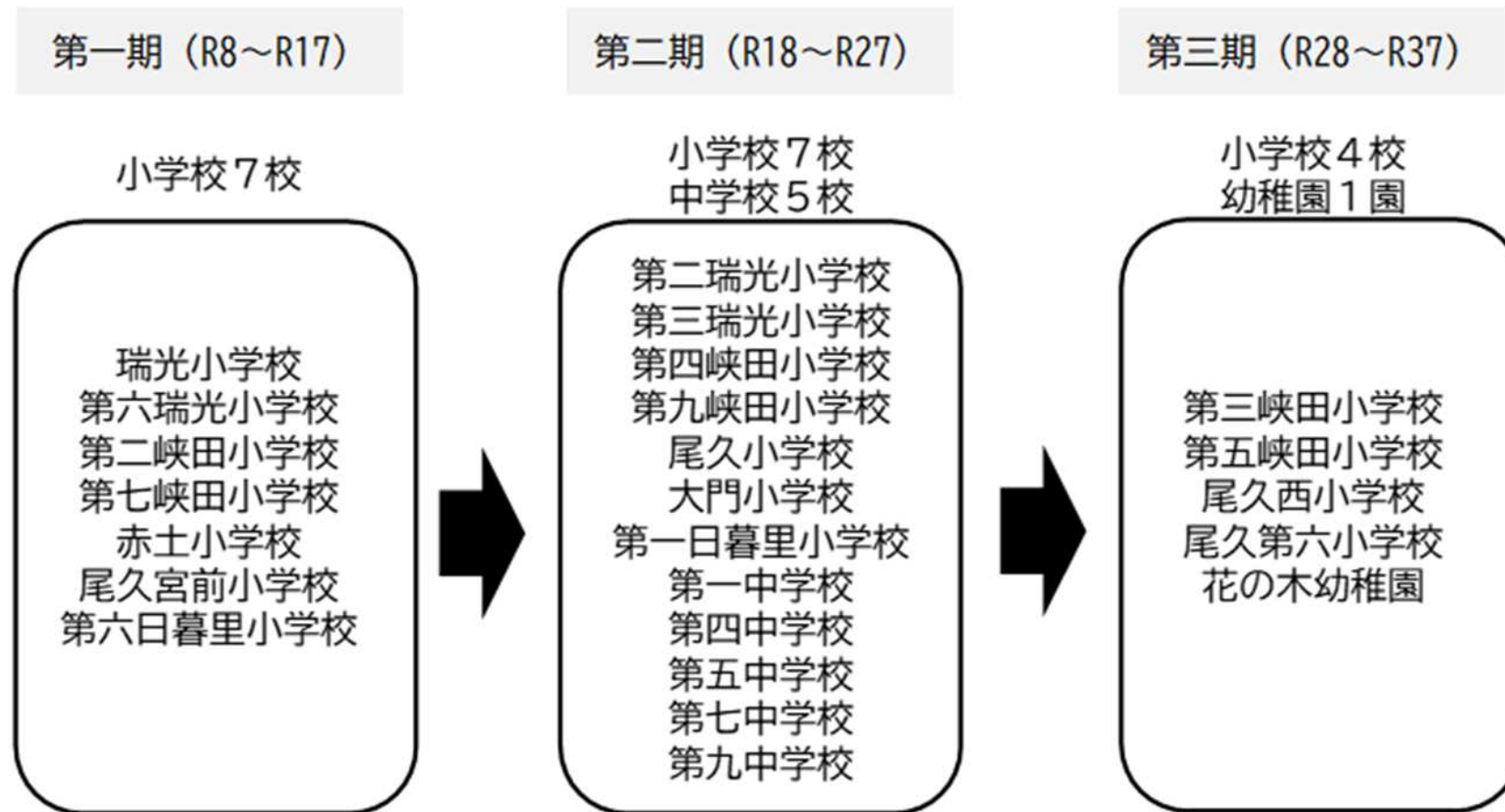
- 建替えの順序は原則、築年数順で実施するが、様々な要因で入替え理由：教室不足解消、小中一貫教育、特別支援教育の充実、複合化などを考慮
- 1校あたり、構想・計画1年、基本・実施設計2年、工事4年の計7年を標準に建替えを実施
- 1校目は、第六日暮里小とし、令和13年度から工事に着手
- 工事期間中は別の場所に確保した代替校舎を使用を想定



3-(1) ロードマップ作成の考え方

ア) 建替え順序 ー検討状況ー

順番の入替後、建替え対象時期を概ね10年ごとの三期に分ける



3-(1) ロードマップ作成の考え方

イ) 適正配置 ー考え方ー

学校	学級数	通学距離
小学校	12～18学級 (19～24学級)	1km以内
中学校	12～18学級 (9～11学級)	2km以内
小中一貫校・ 義務教育学校	18～27学級 (24～36学級)	小学校、中学校の 基準に倣う

※学級数の（ ）は許容範囲

許容範囲を大幅に下回る小規模校は、学校の統合等を検討

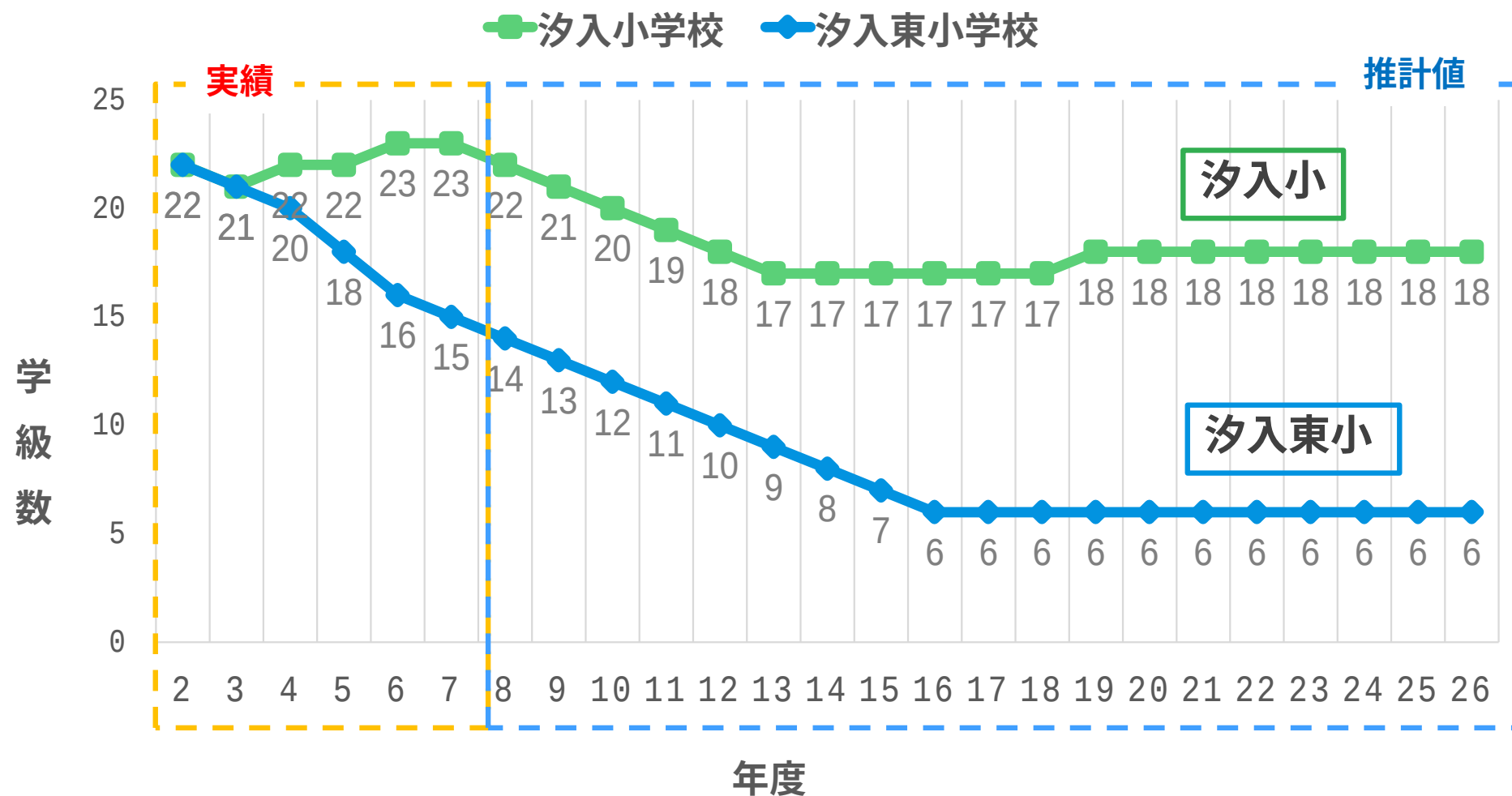
3-(1) ロードマップ作成の考え方

イ) 適正配置 ー検討状況ー

対象校	理由	統合等の可否	統合後の活用
汐入東小	小規模傾向 (単学級見込み)	○ 汐入小と統合	既存校舎を代替校舎 として活用
第六瑞光小	単学級の継続	○ 瑞光小と統合	既存校舎を代替校舎 として建て替える
第三峡田小	小規模の継続 (単学級見込み)	△ 今後の学級数の推移を 見ながら検討	—
第一日暮里小	小規模の継続 (単学級見込み)	× 隣接校と 離れている	—
第九中	小規模の継続 (6学級の見込み)	× 隣接校に余裕なし 小中一貫教育の検討	—

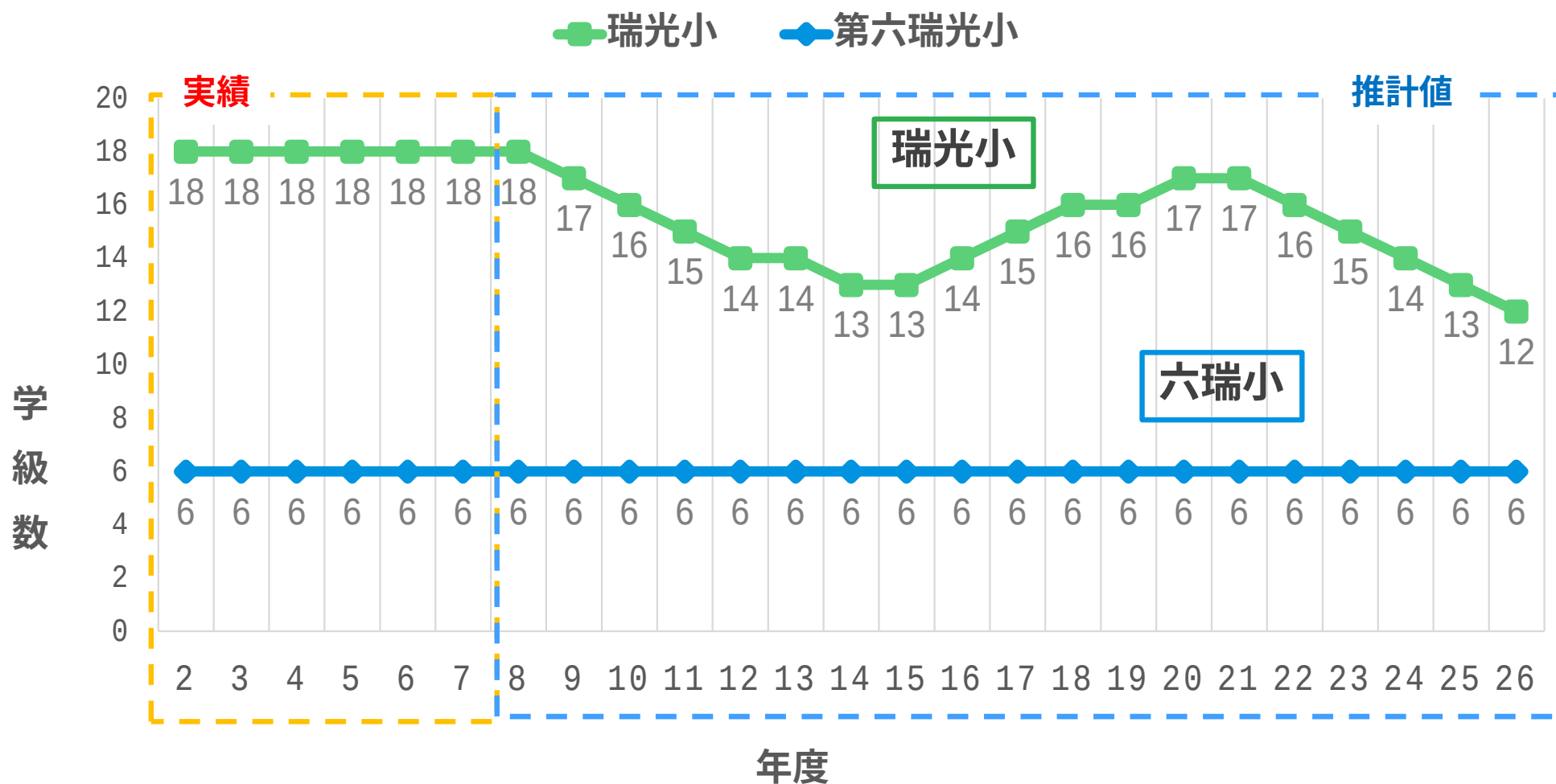
3-(1) ロードマップ作成の考え方

イ) 適正配置 一汐入東小・汐入小の学級数の推移ー



3-(1) ロードマップ作成の考え方

イ) 適正配置 一瑞光小・第六瑞光小の学級数の推移ー



3-(1) ロードマップ作成の考え方

ウ) 小中一貫教育 ー考え方ー

- ▶ 小中一貫教育は多様な学びの在り方における選択肢の一つ
- ▶ 小学校の4つの地区（瑞光、峡田、尾久、日暮里）ごとに1箇所程度、施設分離型もしくは施設一体型の小中一貫校を整備

※瑞光地区は、汐入小・汐入東小・三中で実施

〔メリット・デメリット（主に施設一体型）〕

メリット

- ・ 異学年との交流の機会が増える
- ・ きめ細やかな指導により、中学校への進学に際して、子どもたちは速やかに順応できる
- ・ 中1ギャップ緩和に寄与

デメリット

- ・ 九年間、同一集団と生活することによる人間関係の固定化
- ・ 中学生とともに生活することによる小学生高学年のリーダー性・主体性の育成の困難さ

3-(1) ロードマップ作成の考え方

ウ) 小中一貫教育 ー検討状況ー

- ▶ 建替えに合わせて、小中一貫教育の更なる推進
- ▶ 既に連携教育を実施している瑞光地区を除いた3地区に、施設一体型小中一貫校を整備

地区	一貫校	課題等
日暮里地区	第六日暮里小 新設の中学校	・第六日暮里小敷地に一貫校を建設 ・諏訪台中の生徒数増の対応として、中学校を新設
峡田地区	第七峡田小 第五中	・第七峡田小敷地に一貫校を建設 ・スーパー堤防との調整が必要 ・第五中跡地は、代替校舎建設を想定
尾久地区	赤土小 第九中	・赤土小敷地に一貫校を建設 ・第九中跡地は、第二校庭として利用を想定 ・夜間学級は別途検討

3-(1) ロードマップ作成の考え方

エ) 特別支援教育等 ー考え方・検討状況ー

建替えにあわせて特別支援教育等の更なる充実を図る

項目	検討案
中学校知的固定特別支援学級	日暮里地区の新設中学校に設置
自閉症・情緒障害固定特別支援学級	小学校、中学校に各 1 か所設置
多様な学びを提供する施設	既存体制の継続や見直し 不登校児童・生徒に対応する施設の 必要性検討

3-(1) ロードマップ作成の考え方

オ) 複合化 ー考え方・検討状況ー

■ 複合化の利点

学校施設と複合施設が互いに機能補完ができ、単体の施設計画では実現しにくい施設環境を整えられること

■ 検討対象

学習の質向上、居場所づくり、子育て支援、施設間交流などが可能となる施設

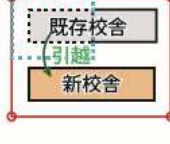
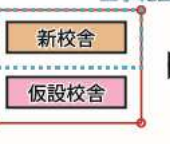
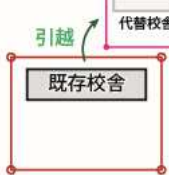
想定施設	想定校
学童クラブ	建替え実施の全小学校
更新等に課題のある 公共施設	建替え実施校の近隣に老朽化した 公共施設があった場合に、 複合化が可能かを検討

3-(2) 代替校舎候補

▶ 居ながら工事の懸念

区内の学校は敷地が狭く、工事中の安全確保や学習環境の確保が困難。
また工期が長期化しやすい。

想定工期
の検証

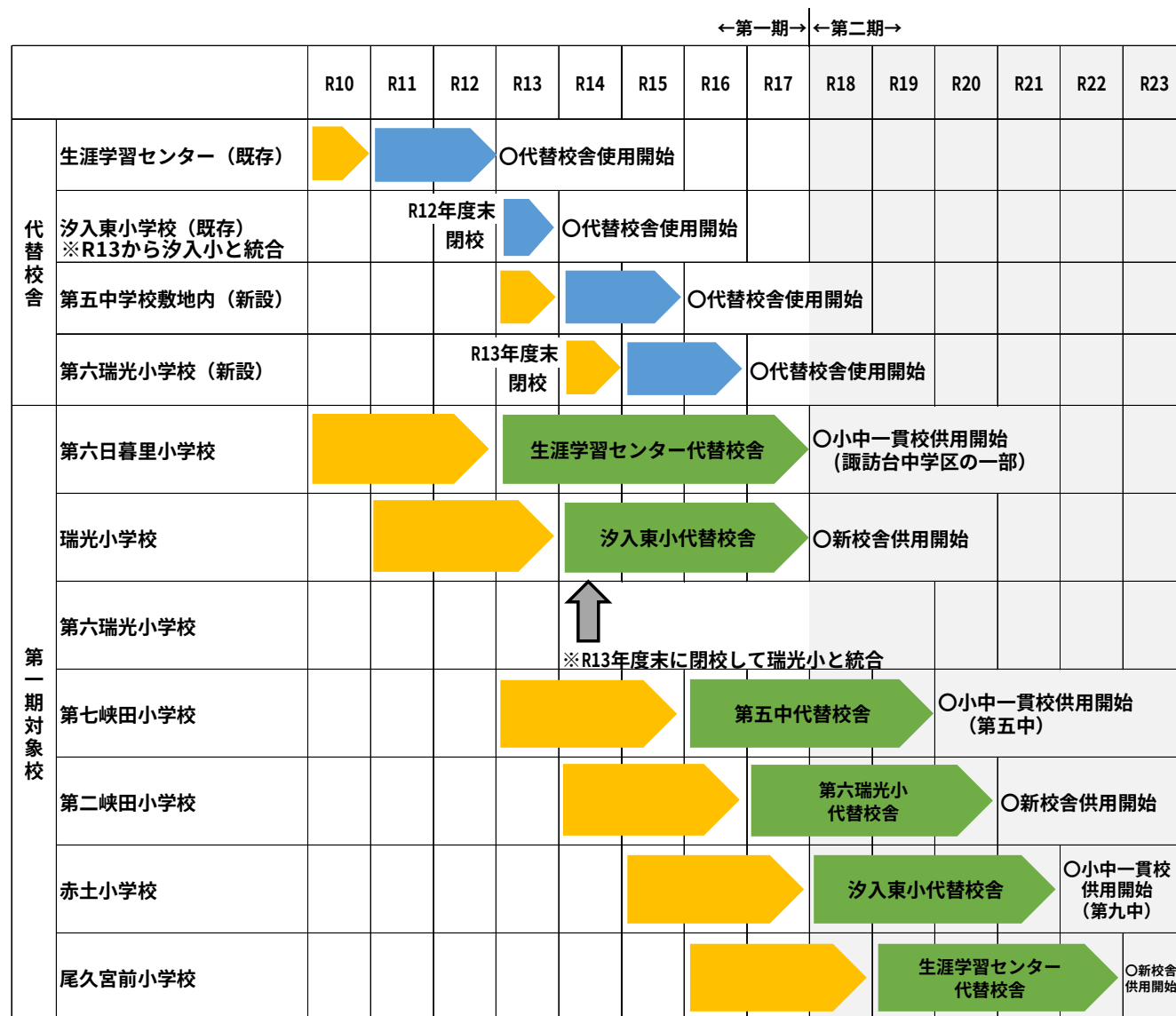
ケース	工事ステップイメージ	想定工期
校庭に新校舎建設 (段階的に整備)	Step1: 1期工事  Step2: 既存校舎解体  Step3: 2期工事 	【78ヶ月～】 X 工期が長い。 工事中の教育環境が制限される。 敷地が狭いため 不可能な学校が多い。
校庭に仮設校舎 建設	Step1: 仮設校舎建設  Step2: 既存校舎解体・新校舎建設  Step3: 仮設校舎解体 	【70ヶ月～】 X 工期・費用がかかる。 工事中の教育環境が制限される。 敷地が狭いため 不可能な学校が多い。
代替校舎を活用	Step1: 代替校舎引越  Step2: 既存校舎解体・新校舎建設  Step3: 新校舎引越 	【41ヶ月～】 O 工期・費用・工事期間中の 教育環境の制限が少ない。 ただし、代替校舎、 通学方法の確保が必要。

→ 建替え期間中に児童生徒が通える代替校舎を確保する必要性

3-(2) 代替校舎候補

候補地	課題等
生涯学習センター	・ 既存機能（生涯学習センター、教育センター、シルバー大学、ふらっとフラット等）の移転先が必要 ・ 耐用年数80年とすると、R31まで使用可能
汐入東小	・ 汐入小との統合
第五中敷地内	・ 既存校舎を残したまま同一敷地内へ代替校舎建設
第六瑞光小敷地内	・ 瑞光小との統合 ・ 既存校舎は規模が小さいため、既存校舎解体後、代替校舎として建替えが必要

3-(3) 第一期におけるロードマップ案



構想・設計

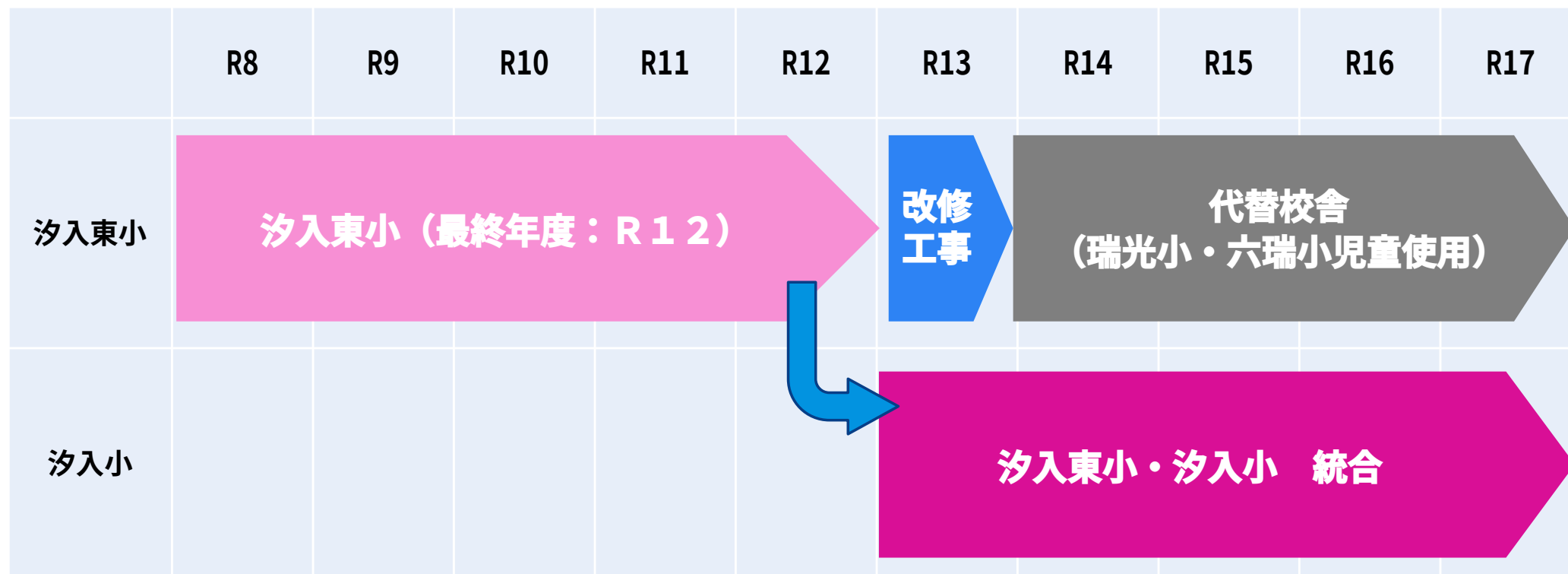
代替校舎改修・建設
(解体含む)

建替え
(解体含む)

なお、今後の状況の変化により、順番の入替も検討

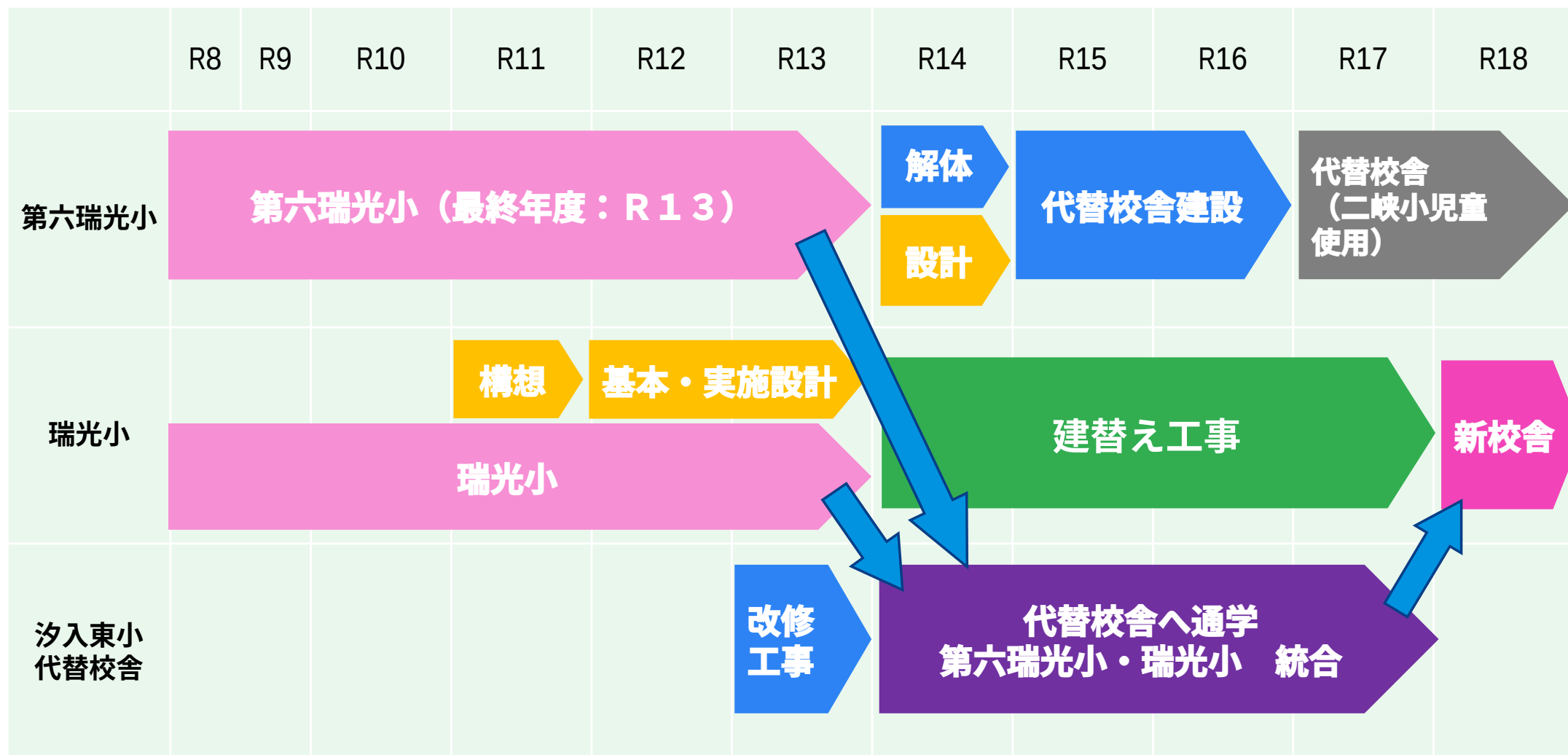
3-(3) 第一期におけるロードマップ案

汐入東小・汐入小



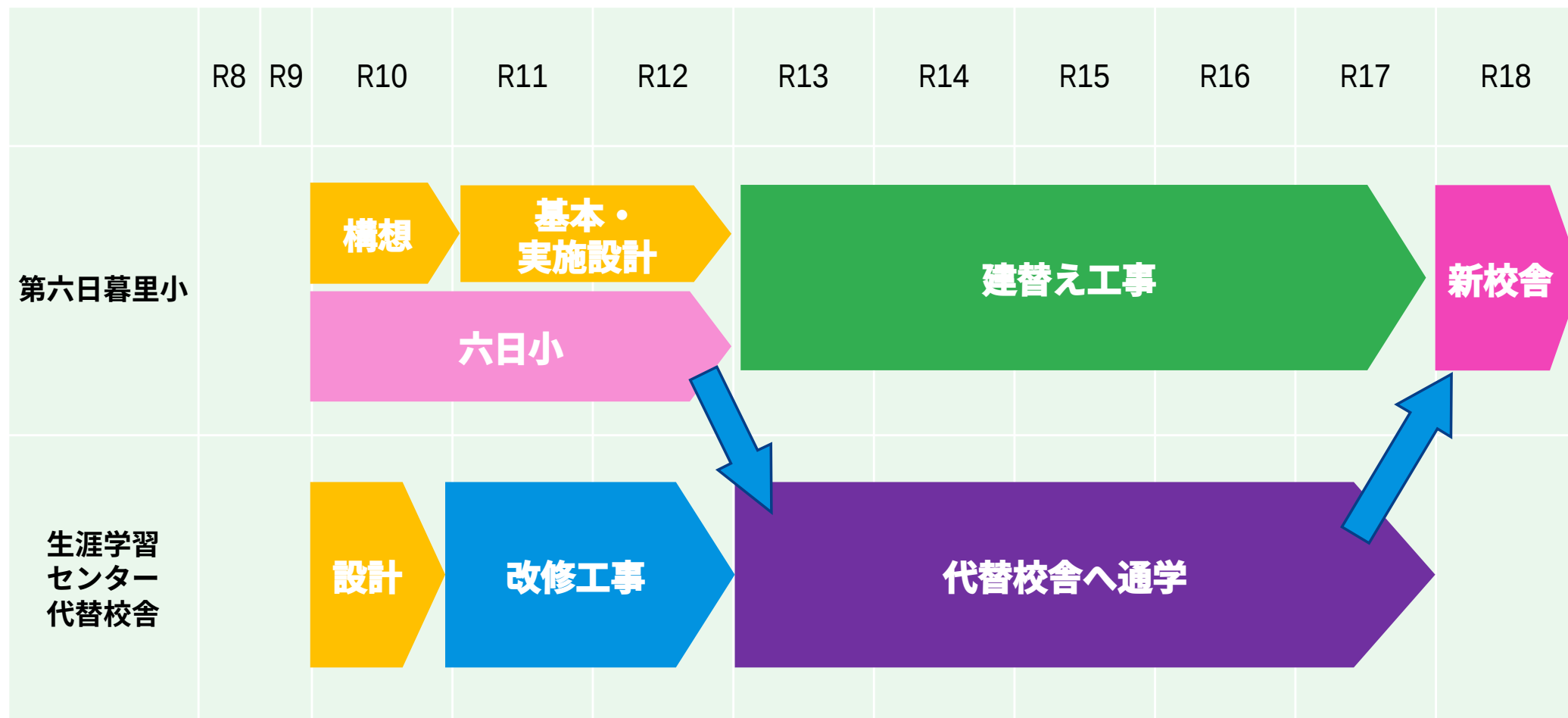
3-(3) 第一期におけるロードマップ案

第六瑞光小・瑞光小



3-(3) 第一期におけるロードマップ案

第六日暮里小



4 学校選択制の取扱い

- 区立学校の教室数に制限があるため、建替えを理由とした通学区域外の学校への優先的な入学は行わないこととし、通学区域外からの希望者が受入可能数を超過した場合は抽選を実施するこれまでどおりの運用を行う
- 通学区域内の児童生徒数が多く、通学区域外からの受入が困難な選択制限校である汐入小学校・第三中学校の制限校の取扱いは、引き続き継続する

5 今後の予定

日程		内容
令和7年	11月	建替え計画（素案）作成
	12月	パブリック・コメント
令和8年	2月	建替え計画（案）作成
	3月	建替え計画策定

ご清聴ありがとうございました

